

## 令和5年度 英語科 授業改善推進プラン

大田区立六郷中学校

### 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

#### (1) 成果

- ・学年問わず基礎的な文法を定着させるためのドリルアクティビティを増やすことができた。
- ・「読むこと」に対する取り組みを充実させることができた。

#### (2) 課題

- ・基礎・基本の定着が不十分である。
- ・「聞くこと」に対する活動が不十分である。

### 2 大田区学習効果測定の結果分析

#### (1) 達成率（経年比較）

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第1学年	正答率は目標値を上回る。区平均をやや下回り、全国平均を上回る。	/	/
第2学年	正答率は目標値を上回る。区平均、全国平均をやや下回る。	正答率は目標値を上回る。区平均をやや下回り、全国平均を上回る。	/
第3学年	正答率は目標値にほぼ達していたが、区や全国の前年度より正答率を下回っている。	正答率は目標値をやや上回ったが、区・全国の前年度より正答率をともに下回っている。	「場面に応じて書く英作文」以外は目標値を上回る。

#### (2) 分析（観点別）

##### ① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
正答率が目標値を大きく上回り、全国平均とも同様もしくは上回っているものが多い。 アルファベットの読み書きの正答率は90%を越える。	正答率が目標値を上回り、全国平均とほぼ同様である。 「書くこと」の正答率は90%を越える。	目標値・区・全国の全ての数値を上回る。

##### ② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
正答率が目標値を上回り、全国平均を下回る。語彙の知識理解は目標値を大きく上回る。	正答率が目標値を上回り、全国平均を大きく下回る。	正答率が目標値とほぼ同等であり、全国平均を下回る。

### ③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
正答率は目標値をとほぼ同等であり、区・全国の正答率はともに下回っている。	正答率は目標値をやや上回ったが、区・全国の正答率はともに下回っている。	正答率は目標値をわずかに上回っており、区・全国の正答率はともに下回っている。

### 3 授業改善のポイント（観点別）

#### (1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単語や文法を、小テストやドリルアクティビティで確認し、基礎の定着を図る。「書く」「話す」についても基本的な活動を通して定着させる。	毎授業の帯活動に「話す」活動を取り入れ、スモールステップで定着を図る。「聞く」「書く」「話す」技能を用いる課題を毎授業で設定する。	生徒同士で話し合う場面や自分自身について表現する課題を多く設ける。定期考査後などに、自分の現状を振り返り、改善する課題を設ける。

#### (2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単語や基礎的な文法をドリルアクティビティを通じ繰り返しながら定着させる。また定期的に小テストを実施しながら意識を高めていく。	枚授業の活動に「読むこと」「話すこと」を中心とした活動を継続して行う。考えて話すことを繰り返し、能力を高めていく。	スモールステップで「できる」という体験を多くしていく。またICTを活用し、主体的に学ぶ態度を向上させていく。

#### (3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単語や文法を、小テストで確認し、復習を行うことで基礎の定着を図る。「書く」についても入試対策をしつつ、日常的な話題についての活動を取り入れる。	毎授業の帯活動に「読む」活動を取り入れ、定着を図る。「聞く」「書く」「話す」技能を用いる機会を日々の活動で設定する。	生徒同士で話し合う場面や自分自身について表現する活動を毎授業に設定する。小テストや定期考査後に、自らの学習を振り返る機会を設ける。